

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社シルバーメディカルサービス
 研修事業の名称 介護職員初任者研修（通学）
 シルバーメディカルスクール

| 1 職務の理解（6時間） | | |
|-------------------------|-----|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 多様なサービスと理解 | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職が目指す実践について、具体的なイメージ形成をする。</p> <p>介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外の障害者サービス等について理解する。</p> <p>【演習内容】</p> <p>各種介護サービスについて視聴覚教材等を活用し、介護サービスの内容及び介護サービス提供現場を理解する。</p> |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <p>居宅及び施設介護サービスの多様な仕事内容を理解する。ケアプラン作成からサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源活用を理解する。</p> <p>【演習内容】</p> <p>各種介護サービスについて視聴覚教材等を活用し、介護職の業務の理解を深める。</p> |
| 合計 | 6時間 | |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間） | | |
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | 6時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職が、高齢者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援と介護予防という基本的視点を理解する。</p> <p>高齢者の尊厳について学び、高齢者虐待防止について理解する。</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <p>(イ) 介護分野におけるICF</p> <p>(ウ) QOLの考え方と生活の質</p> <p>(エ) ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(オ) 虐待防止と身体拘束禁止</p> <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>【演習内容】</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚することを目的に事例を用いてワークショップを行う。</p> |

| | | |
|------------|-----|---|
| ② 自立に向けた介護 | 3時間 | <p>【講義内容】 自立支援・介護予防の基礎知識と利用者の残存機能を効果的に活用し 重度化の防止と機能維持に関するケアを理解する。 介護予防の考え方を理解する。</p> <p>【演習内容】 自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについて、事例を用 いて理解する。</p> |
| 合計 | 9時間 | |

| 3 介護の基本（6時間） | | |
|-------------------------|-------|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 1.5時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療及び看護との連携の必要性を理解する。</p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・根拠ある介護・チームケアの重要性 <p>(ウ) 介護にかかわる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の理解 ・多職種の個々の役割の理解 |
| ② 介護職の職業倫理 | 1.5時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職の職業倫理の重要性、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点等を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の倫理綱領 ・介護職に求められる行動規範 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1.5時間 | <p>【講義内容】</p> <p>利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ</p> <p>(ア) 介護におけるリスクマネジメントの理解</p> <p>(イ) 事故予防と安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの必要性と安全対策の考え方 ・介護現場に多いリスクについて ・事故に至った経緯の報告（家族・市町村） ・情報の共有 <p>(ウ) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染の原因と経路（感染源の排除と感染経路の遮断） ・感染に対する正しい知識 |
| ④ 介護職の安全 | 1.5時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレスを学び自身の健康管理の必要性やその方法について学ぶ。</p> <p>介護職の心身の健康管理を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康と介護の質 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗いとうがいの励行、手洗いの基本 ・感染管理 <p>【演習内容】</p> <p>腰痛予防体操の実際と感染予防のための手洗い方法と吐瀉物処理方法を体験する。</p> |
| 合計 | 6時間 | |

| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間） | | |
|----------------------------|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護保険制度 | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <p>生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置付け、各サービスや地域支援の役割、財源構成、保険料負担の大枠を理解する。</p> <p>(ア) 介護保険制度創設の背景及び目的と動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の高齢化に伴う社会的背景や介護保険の制度の基本理念 ・地域包括ケアシステムの推進 <p>(イ) 介護保険制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の概要 ・包括的支援事業 <p>(ウ) 制度を支える財源、組織及び団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・都道府県・市町村等の役割 ・介護保険の財政 |
| ② 医療との連携 とリハビリテーション | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <p>介護職と医療行為の実情と経過について理解し、一定の要件のもと介護福祉士等が行なう医行為などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・施設における看護と介護の役割及び連携 ・リハビリテーションの考え方 <p>【演習内容】</p> <p>施設を見学しリハビリテーションや看護職との連携等を具体的に知る。</p> |
| ③ 障害者自立支援制度 及びその他制度 | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <p>障害の概念を学び障害者自立支援制度の基本的なしくみについて理解し、生活を支援するための主なサービス(障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度)の目的と内容を知る。</p> <p>(ア) 障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害と障害者の概念 ・障害福祉理念としての自立 <p>(イ) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立支援法から障害者総合支援法へ ・サービスの種類と内容 ・介護給付及び訓練等給付の申請から支給決定まで <p>(ウ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 |
| 合計 | 9時間 | |

| 5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間） | | |
|---------------------------|-----|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 介護における コミュニケーション | 3時間 | <p>【講義内容】 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、事例を通して利用者に応じたコミュニケーションの実際を理解する。</p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの基本 <p>(イ) コミュニケーションの技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語コミュニケーションの特徴 <p>(ウ) 利用者及び家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いの把握 ・意欲低下の要因の考察 ・利用者の感情への共感 ・家族の心理的理解 ・信頼関係の形成 ・自分の価値観による家族の意向への非難をしないために <p>(エ) 利用者の状況と状態に応じたコミュニケーションの技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力及び聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>【演習内容】 ロールプレイングにより、コミュニケーション技術の実際を体験して、利用者に応じたコミュニケーションの行動例を理解する。</p> |
| ② 介護におけるチームの コミュニケーション | 3時間 | <p>【講義内容】 記録の意義と目的を理解し書き方の留意点を学ぶ。 チームのコミュニケーションの有効性及び重要性を理解し基礎的な行動(ハウレンソウ)や会議の目的などを理解する。</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義と目的及び5W1H ・介護に関する記録の種類 ・記録の書き方と留意点 ・記録の保護と管理 <p>(イ) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談の留意点 <p>(ウ) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の意義と目的 ・会議の種類と運用 ・ケアカンファレンスの重要性 <p>【演習内容】 介護記録の作成のためのワークショップを行なう。</p> |
| 合計 | 6時間 | |

| 6 老化の理解 (6 時間) | | |
|------------------------|------|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 | 3 時間 | <p>【講義内容】 老化に伴う生理的な変化や心身の変化と特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴を知り日常生活への影響について理解する。</p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防衛反応 (反射) の変化 ・ 喪失体験 <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的機能の変化 ・ 感覚機能の変化 ・ 咀嚼機能・消化機能の変化 ・ 循環器の機能の変化 ・ 呼吸器の機能の変化 ・ 筋、骨、関節の変化 ・ 泌尿器の機能の変化 ・ 体温維持機能の変化 ・ 記憶機能と認知機能の変化 |
| ② 高齢者と健康 | 3 時間 | <p>【講義内容】 高齢者に多い疾病の種類、その病状や特徴及び治療と生活上の留意点 高齢者の疾病による症状や訴えを知る。</p> <p>(ア) 高齢者の症状と疾患の特徴</p> <p>(イ) 高齢者に多い疾患と日常生活上の留意点</p> <p>(ウ) 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣病 ・ 運動系の病気 ・ 知覚系の病気 ・ 呼吸器系の病気 ・ 腎泌尿器の病気 ・ 消化器の病気 ・ 循環器障害 (脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患) ・ 介護保険の特定疾病 ・ 感染症 <p>【演習内容】 具体的な事例をあげて高齢者の健康問題とその対応 (注意点や観察点) に関してグループワークを行う。</p> |
| 合計 | 6 時間 | |

| 7 認知症の理解(6時間) | | |
|------------------------|-----|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>認知症中心ケアからその人中心というケア転換の意味を理解し個人を尊重する視点にたって支援することを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人中心のケア ・認知症ケアの視点(問題視ではなくできることに着目する) |
| ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 2時間 | <p>【講義内容】</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別症状及びケアのポイントについて学ぶ</p> <p>(ア) 認知症の概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 <p>(イ) 認知症の原因疾患とその病態</p> <p>(ウ) 原因疾患別ケアのポイント</p> <p>(エ) 健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療 ・認知症予防 |
| ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常 | 2時間 | <p>【講義内容】</p> <p>認知症の症状を知り尊厳をもってケアすることを学ぶ</p> <p>(ア) 認知症の人の生活障害及び心理と行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状 ・認知症の行動と心理症状(BPSD) ・認知症と生活環境改善 <p>(イ) 認知症の利用者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の利用者にかかわる際の心構え ・認知症の利用者の関わり方の基本 <p>【演習内容】</p> <p>認知症の利用者への対応についてワークショップを行なう。</p> |
| ④ 家族への支援 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>家族介護者の気持ちの理解やレスパイトの重要性を学ぶ。</p> <p>家族は助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えるパートナーの役割があることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護負担の軽減(レスパイトケア) ・家族のエンパワメント |
| 合計 | 6時間 | |

| 8 障害の理解(3時間) | | |
|-------------------------------------|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 障害の基礎的理解 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>障害や I C F の概念を学び障害福祉の基本的な考え方について理解する</p> <p>(ア) 障害の概念と I C F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C F の分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 <p>(イ) 障害者福祉の基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの概念 |
| ② 障害の医学的側面、生活障害、心理と行動の特徴、かかり支援等基礎知識 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>(ア) 身体障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害 ・ 聴覚、言語障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 <p>(イ) 知的障害</p> <p>(ウ) 精神障害 (高次脳機能障害を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症、気分 (感情障害)、依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 <p>(エ) 発達障害</p> <p>広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など</p> <p>(オ) その他の心身の機能障害 (難病等)</p> |
| ③ 家族の心理 かかり支援の理解 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>家族への支援と我が国のレスパイとサービスの課題を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の障害の理解と障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 <p>【演習内容】</p> <p>事例提供しそこから家族の心理や思いを学びどのような支援が良いかを討議形式で考える。</p> |
| 合計 | 3時間 | |

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

| 基本知識の学習 | 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|--------------|-----------------------|-----|---|
| | ① 介護の基本的な考え方 | 2時間 | 【講義内容】 ・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護 |
| | ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3時間 | 【講義内容】 ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 【演習内容】 加齢に伴う変化とともにそれを受容する過程を学習し、適応能力が損なわれないような支援方法をロールプレイ等で学習する。 |
| | ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 5時間 | 【講義内容】 ・生命の維持恒常のしくみ（バイタルサイン） ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 【技術演習内容】 バイタルサインチェック（体温・脈拍・呼吸・血圧の測定）の体験 |
| 生活支援技術の講義・演習 | ④ 生活と家事 | 3時間 | 【講義内容】 家事と生活の理解及び家事援助に関する基礎知識と生活支援を学ぶ ・家事援助に関した基礎知識と生活支援技術 【技術演習内容】 事例にそって家事援助計画と昼ごはんの献立を考え買い物リストを作成する。 |
| | ⑤ 快適な居住環境整備と介護 | 2時間 | 【講義内容】 快適な居住環境に関する基礎知識と高齢者及び障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を学ぶ (ア) 快適な居住環境の基礎知識 (イ) 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 【演習内容】 視聴覚教材を活用して、快適な住環境と福祉用具を理解する。 |

| | | |
|---|--------------|---|
| <p>⑥ 整容に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>4 時間</p> | <p>【講義内容】 整容に関する基礎知識及び整容の支援技術を学ぶ</p> <p>(ア) 整容の意味 (イ) 整容の支援技術 (ウ) 衣服の着脱</p> <p>【技術演習内容】 衣類の着脱方法の実技を行う。</p> |
| <p>⑦ 移動と移乗 に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>15 時間</p> | <p>【講義内容】 移動と移乗に関する基礎知識、用具とその活用方法、利用者と介助者にとって負担の少ない移動と移乗の支援方法、社会参加の留意点を学ぶ。</p> <p>(ア) 日常生活と移動移乗に関する基礎知識 (イ) 移動・移乗に関する用具とその活用方法</p> <p>【技術演習内容】 体位変換、車いすへの移乗と移動、肢体不自由者の杖歩行の介助 視覚障害者の歩行介助の実技を行う。</p> |
| <p>⑧ 食事に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>8 時間</p> | <p>【講義内容】 食事に関する基礎知識、食事環境の整備及び食事介助や支援方法、低栄養が心身に及ぼす影響について理解する。</p> <p>(ア) 食事に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養と脱水の弊害 ・食事と姿勢 <p>(イ) からだのしくみと食事形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼と嚥下のメカニズム ・空腹感と満腹感 <p>(ウ) 食事に関連した福祉用具の活用と介助方法 (エ) 食事を阻害する心と体の要因理解と支援方法 (オ) 口腔ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎の予防 <p>【技術演習内容】 食事介助（姿勢・摂食等）の方法を学び体験する。 口腔ケア方法を体験する。</p> |

| | | |
|---|--------------|---|
| <p>⑨ 入浴と清潔保持 に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>10 時間</p> | <p>【講義内容】 入浴と清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について学ぶ。</p> <p>(ア) 入浴と清潔保持に関連した基礎知識 (イ) 入浴用品と整容用具の活用方法 (ウ) 入浴を阻害する心と体の要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭 ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・陰部清浄（臥床状態での方法） ・足浴、手浴、洗髪 <p>【技術演習内容】 視聴覚機材を活用して、入浴の手順と全身清拭を学び、教室でも手順を実施。足浴・手浴・洗髪の実技を行う。 全身浴と入浴介助（通常浴とリフト浴等）洗髪をセンター実習で見学。</p> |
| <p>⑩ 排泄に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>8 時間</p> | <p>【講義内容】 排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法について学ぶ。</p> <p>(ア) 排泄に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄のメカニズム <p>(イ) 排泄環境と排泄用具の活用 (ウ) 排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・介助の方法と留意点 <p>【技術演習内容】 ポータブルトイレでの排泄介助 ベッド上おむつ交換を実施。 排泄における自立を支援する介助とプライバシーの保護を学ぶ</p> |
| <p>⑪ 睡眠に関連した こころとからだの しくみと 自立に向けた介護</p> | <p>2 時間</p> | <p>【講義内容】 睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法を学ぶ。</p> <p>(ア) 睡眠に関する基礎知識 (イ) 睡眠環境と用具の活用方法 (ウ) 睡眠を阻害する心と体の要因理解と支援方法</p> <p>【技術演習内容】 ベットメイキングを学ぶ</p> |

| | | | |
|----------|---|-------|--|
| | ⑫ 死にゆく人に 関連した こころとからだの しくみと 終末期介護 | 3 時間 | <p>【講義内容】</p> <p>終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程死に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援を学ぶ。</p> <p>(ア) 終末期ケアの基礎知識と心と体のしくみ</p> <p>(イ) 生から死への過程</p> <p>(ウ) 死と向き合う心の理解と支援</p> <p>【演習内容】</p> <p>終末期ケアと看取りについて、事例を使用し支援内容等をグループワークで学ぶ。</p> |
| 生活支援技術演習 | ⑬ 介護過程の 基礎的理解 | 4 時間 | <p>【演習内容】</p> <p>介護過程の基礎知識とチームアプローチを理解し個別援助計画書の作成を行う。</p> <p>(ア) 介護過程の目的と意義及びその展開を理解する</p> <p>(イ) 介護過程におけるチームアプローチを理解する</p> |
| | ⑭ 総合生活支援 技術演習 | 7 時間 | <p>【演習内容】</p> <p>事例を通じ利用者の心身の状況にあわせた介護支援技術を提供する視点を養うことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援 2 ・認知症 ・片麻痺 ・座位保持不可より 2 事例 (1 事例に 3 時間を予定) ・学習の流れ (1 から 5 の流れ) <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を提示 2. こころとからだの力が発揮できない要因を分析 3. 適切な支援技術の検討 4. 支援技術演習 5. 支援技術の課題 ・生活支援技術の技術演習で学んだ経験を確認 ・ワークショップを通し事例対応を整理し討論を行う |
| 施設実習 | | 12 時間 | <p>【実習内容】</p> <p>通所介護施設において 3 日間 (1 日 4 時間) の実習を行う。</p> <p>利用者のケアを見学や職員指導の下体験しながら介護技術等を学ぶ。</p> <p>(ア) 指導者と一緒に行う体験: 食事 (配膳・下膳) ・レクリエーション・更衣の一部、車椅子移動、付き添い歩行、体操等等</p> <p>(イ) 見学: 食事介助、口腔ケア・排泄介助・機能訓練・入浴介助</p> |
| | 合計 | 88 時間 | |

| 10 振り返り（4時間） | | |
|----------------------------------|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 振り返り | 3時間 | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の内容の再確認と再点検 ・研修において自ら感じた喜びと弱点を確認 <p>【演習内容】</p> <p>受講者全員による研修により得たこと及び今後の抱負を発表する</p> |
| ② 就業への備えと 研修修了後における 継続的な研修 | 1時間 | <p>【講義内容】</p> <p>就業後も継続して学習し自己研鑽できることを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護プロフェッショナルキャリア段位制度（厚生労働省）について ・介護福祉士養成施設実務者研修について ・事業所におけるOJTの事例 ・認知症研修等OFFJTの事例 |
| 合計 | 4時間 | |
| 全カリキュラム合計時間 | | 143時間 |